

2020年度 多摩学班

次世代に届けたい多摩地域のあり方 ～鉄道を見ながら～

学部生：井上・神尾・田中・細川

大学院生：鈴木

大学院OB：菊永

教員：長島先生、山田先生、荻野先生



本日の報告内容

1. 多摩学2020のリーサーチクエスト
2. リサーチクエストの経緯
3. 章立て案
4. 今後のスケジュール
5. 文献リスト



1. リサーチクエストジョン

リサーチクエスチョン

次世代に届けたい

多摩地域の在り方

～30年後の次の世代が望む多摩地域にするために～

職・住・文化に着目して、
鉄道が及ぼした環境の変化から推測する。



2. リサーチクエスト 設定の経緯

昨年残された課題

* 東急電鉄のヒアリング

街の成型＝沿線開発

→町の発展とモビリティ開発には深い関わりがある。

(仮説)

街構想において鉄道会社の影響は欠かせない。

「街」というモノの**開発主導**は電車社会において**鉄道各社に移行**している。



現在の鉄道会社の開発方針

「コミュニティ・リビング」

居住地から歩ける範囲に、
買い物、子育て、就労、コミュニティ活動等暮らしに必要な
機能を適切に配置し、それぞれを連携させていくという案。

今年「街の価値」に着目

* ベッドタウンの転換期

広域が特徴の
「ベッドタウン」
存在価値を高める
には

* 職住近接環境（コミュニティリビングの研究）

遊ぶ・働く・寝る、
場所のすべて居住地
近辺で充実している
環境づくりに必要な
こととは

* 新しい「多摩地域」の構想

文教都市として
多摩地域の向かう
べき方向性とは

鉄道が及ぼす影響

先行調査により

社会のニーズに合わせて
鉄道は様相を変えてきた

先行研究 鉄道が及ぼした街の変化 街づくり編

＊明治初期

甲武鉄道開業
貨物利用

明治政府が軍の機関や弾薬庫を設置し、その運搬用に開業する。
(現在の)都心から多くの軍需品を輸送する。

＊明治後期・大正

支線の登場
軍需用貨物

企業が増え、軍需品を様々な場所に運ぶために、甲武鉄道を支点に多くの支線が作られる

＜例＞JR青梅線, 西武国分寺線など

＊戦中 (1931～)

支線の発展
貨物+旅客

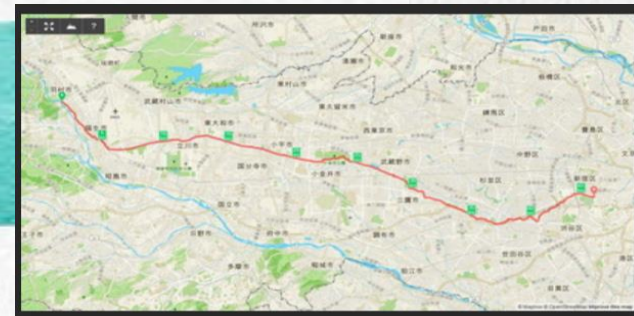
現在の23区の工場に勤める労働者の足に。
戦争激化により多くの軍需品を輸送

＊戦後

人口急増
旅客メイン

都心への良好なアクセスが功を奏し、多くの住宅が建設され、人口400万人地域に

先行研究
鉄道が及ぼした街の変化 文化編



◇玉川上水 羽村から四谷大木戸

＊玉川上水（水運）から独自の住居文化形成へ



成り立ち：江戸時代の上水道。
羽村から四谷大木戸までの
43kmを結ぶ。

仮説：玉川上水により暮らしの基盤ができた。
これにより、多摩地域に文化・食・住の独自の楽しむモノが
生まれたのではないかと

先行研究
鉄道が及ぼした街の変化 都市拡大化編

* JR横浜線

江戸の経済圏の中心地として発展した八王子から横浜へ絹の運搬するために設立。

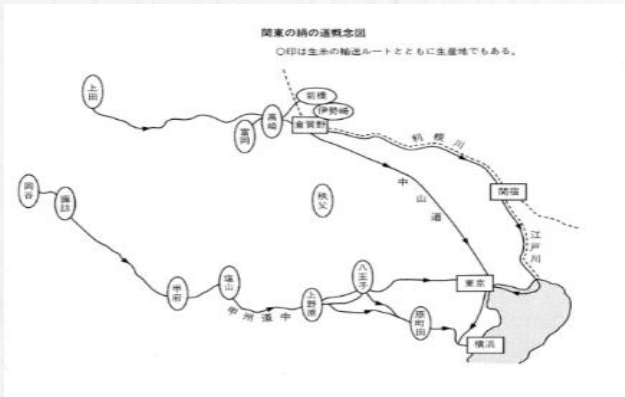
沿線の住宅地化と人口増大により現在は通勤路線に。

ベットタウン化を加速させてしまったのではないか。

全ての街に共通する仮説

Next Stage

自律分散型社会へのシフト
各駅、次世代に同程度のニーズのある地域作り。



公共交通と地域との関係は新しいステージへ

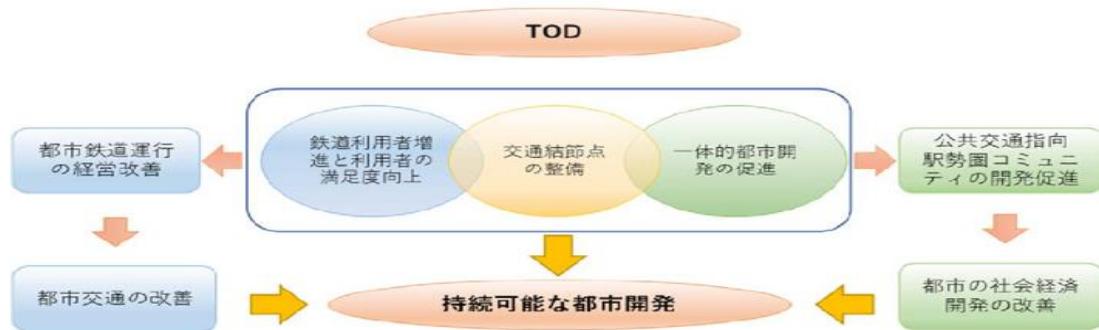
公共交通から促される都市開発の視点で調査

TOD(Transit Oriented Development)

=広義:公共交通と促す開発全体

狭義:公共交通沿線で高密度・複合機能のコンパクトな開発

- 日本では駅前・沿線開発として長く実践
- TOD効果は良質な都市鉄道サービスの提供と望ましい駅前・沿線開発によってもたらされ両者を結びつけるのが交通結節点
- 沿線開発は鉄道沿線の鉄道用地や鉄道のシナジー効果を狙って行われ、ニュータウン開発がその典型例



出典:調査団作成

図 3.1 TOD の概念的理解

鉄道ビジネスの取り組み方で明暗が分かれる

明暗分かれる鉄道ビジネス

- 東京急行電鉄: 渋谷と沿線によって莫大な収益を上げて、総合力で戦略的な投資を行う
- 小田急電鉄: レジャー投資に失敗し、鉄道事業に特化するも新規事業育成に課題
- 京王電鉄: 堅実に稼げる通勤通学の足を持つが、沿線のブランド力がなく地味

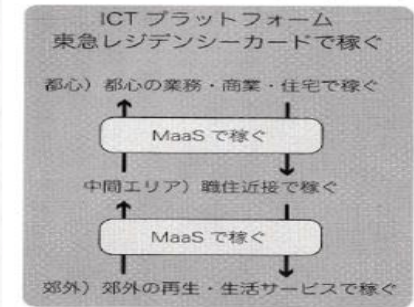
出典:佐藤 充、「明暗分かれる鉄道ビジネス」(2019)

価値の中心は機能の提供からデータの活用へ

私鉄3.0のビジネスモデル

鉄道会社グループの顧客データベースを統合し、生活サービスを総合的に提供していく
(ICTの積極的活用)

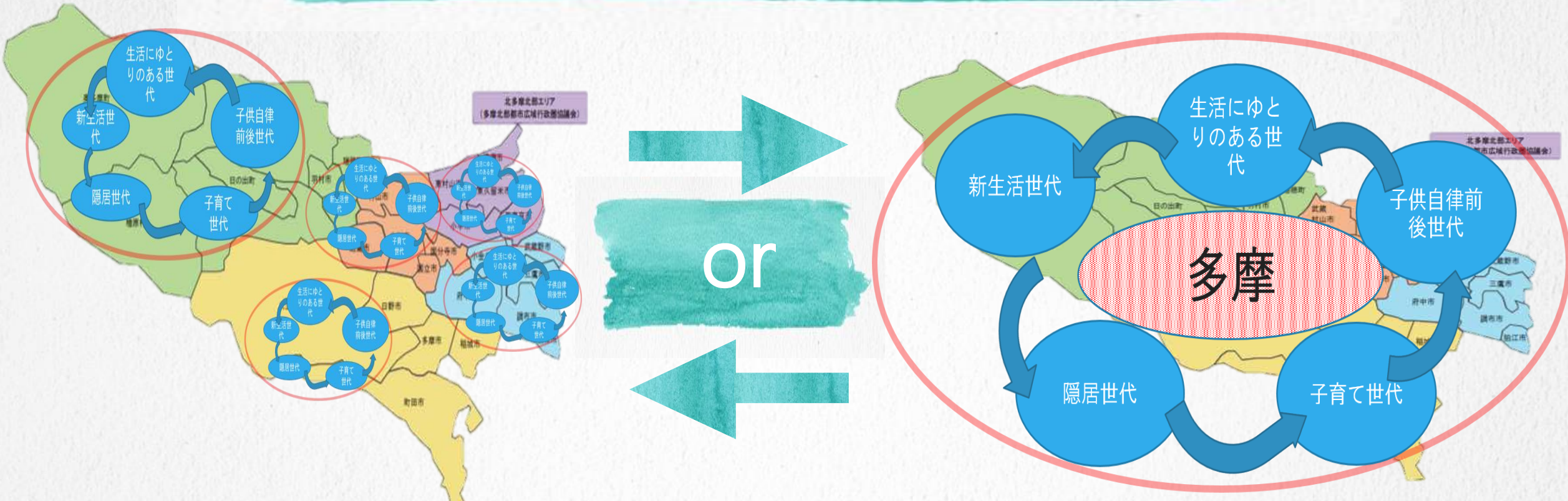
【私鉄3.0のビジネスモデル】



出典:東浦 亮典、「私鉄3.0」(2018)

出典:JAICA、鉄道整備と都市・地域開発を連携させる開発のあり方に関する調査(2017)

理想の多摩地域



多摩地域全域において限りなく偏り無く人が住み、文化を継承する仕組みが不可欠。

3. 章立て案

I 調査の趣旨

- ・背景と目的、調査方法などを精査していく

II 18世紀の鉄道を知る

- ・天領として帝都東京を支えた多摩地域。広いエリアに「鉄道」という血管が走った事で地域にどう変革を齎したのかを見る。

III 現在の鉄道を知る

- ・都心へのアクセス手段として栄えた鉄道。鉄道の持つ価値の変遷を敷設当時と比較してニーズの変容を探る。

IV 「鉄道」を取り巻く環境の変化

- ・社会の発展と共に鉄道会社に対するニーズが変遷している現代。今、これから「鉄道」という媒体はどこへ向かっていくのか。

V 届けたい街の構想

- ・多摩地域に根を下ろしてもらうための魅力づくりに対して提言。



4. 今後のスケジュール

多摩学班、地域班の過去論文を精査。
再現性の高いものがあるのか研究



後期からヒアリングを開始。文献調査から次世代に残すべきものを扱っている企業へヒアリング

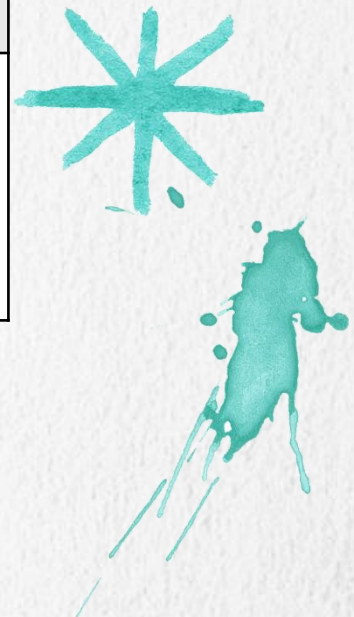


次代に繋ぐための要素を転用して提言



5. 文献リスト、FW

	文献リスト	FW候補地
街づくり	<ul style="list-style-type: none">• 多摩あゆみ• 明暗分かれる鉄道ビジネス• 私鉄3.0• 日鉄の歴史	<ul style="list-style-type: none">• JR• 京王電鉄• 多摩モノレール株式会社
文化	<ul style="list-style-type: none">• 多摩のあゆみ• 多摩学班 論文• 地域班 論文	<ul style="list-style-type: none">• 教育関係• 地域課題の解決に向かう企業





ご清聴
ありがとうございました